

いつも ありがとう

富山県
富山大学人間発達科学部附属小学校二年

梅川 新太郎

しょうがくせいになって、はじめてのなつやすみは、きよねんとちがいます。どこがちがうのかというところ、いつもいっしょに「え」をかいたり、しんぶんをよんだり、ゴミだしをしたり、ジョークをわらつてくれたり、こうさくをみて「しんちゃん、じょうずだね。」と、ほめてくれた大すきなおじいちゃんがいらないのです。ほくが「ねんせいになるすこしまえに、おはかにはいりました。「天国」というばしょで、おじいちゃんはいつもみているんだよ。」と、おかあさんはいいます。シーンとせずかで、でんきがつかなくなつたおじいちゃんのへやが、「さみしいよ……。」と、いつていてみたいで、おかあさんに「おじいちゃんのへやを、ぼくのへやにしてもいい？」と、ききました。すると、おかあさんは、「そうだね、おじいちゃんもきつと、しんちゃんにつかつてもらえたら、よろこぶわね。」と、さんせいしてくれました。さつそく、へやのドアに、はりがみをしました。「しんたろうとおじいちゃんのへや」よこにランドセルをせおつたぼくと、ゆうれいのすがたをしたおじいちゃんが、ならんでピースをしている「え」もかきました。つくえをはこんでもらい、カレンダーをはつたり、本をならべたり、たいせつなロボットたちをならべてかんせい。そこへ、おばあちゃんとおかあさんがきて、「あらーすてきなへやに大へんしんしたね。しんちゃん、ありがとう。」とわらいがお

でないていました。ほくも、「おじいちゃんといっしょにいるみたいで、うれしいよ。ありがとう。」と、いいました。ほくがへやにいると、いもうとのあおいちゃんがあそびにくるので、おかあさんが「あおいちゃんのつくえも、いれたい？」と、ききました。ほくは「いいよ。」と、こたえました。ときどき、あおいちゃんに「ひらがな」をおしえてあげると「わあーおにいちゃん、ありがとう。」といつてくれてうれいす。そういえば、おじいちゃんはいつもかぞくに「ありがとうね、ありがとうね。」と、えがおでいつていたなあとおもいだしたら、かなしいきもちになつてしまいました。おじいちゃんは70さいで天国へいきましたが、ぼくは170さいまでながいきしたいです（おじいちゃんの70さいとぼくの100さいをたす）。そして、おじいちゃんがいっつもいつていた「ありがとう」という、みんながしあわせになれることばを、いつもやさしくしてくれる、かぞくのみんなと、いっばいつかつて、もつともつと、しあわせになりたいです。おじいちゃん、いままでほんとうにありがとう。「天国」からいつもみていてね。そして、おとうさん、おかあさん、あおいちゃん、おばあちゃん、ほくを大すきだよつて、まいにちだきしめてくれて、たくさん元気をくれて、ありがとう。これからもよろしくね!!